

おうちの方へ

小 / 算数 / 1年 / 数と計算 /
おうちの方へ / 理解シート

10までのひき算で、指を使って計算しているが、
このままでよいでしょうか



指を使っていると、繰り下がりのある計算の段階で、
おおきくつまずいてしまいます。

1

計算では、指を使わないように指導しましょう。

指を使って計算しているのは、数がどのようなものの集まりであるか、はっきり認識していないためです。

教科書の「10までのかず」がどのような意味を持っているか、いろいろなものの集まりや、おはじきなどの個数にどのように対応しているかが、頭の中にイメージとしてうかばないためです。

数のイメージが頭の中に形成されないと、いつまでも、指を折りながら数の計算をするようになってしまいます。10までの数のうちは、どうにか両手を使って計算できますが、10より大きな数になると、指の数がたりなくなって、計算ができなくなってしまいます。

2

数のイメージを形成する、おはじきの遊びをしましょう。

10個のおはじきを分けてかくす遊びを紹介します。

- ① はじめに、10個のおはじきを見せて、個数を数えます。
- ② 10個のおはじきを両手で持ってかくして、2つに分けます。
- ③ ②の一方の手を開いて、その個数を数えます。
- ④ 開いていない方の手にかくされている、おはじきの個数を当てます。
- ⑤ 数が合っているときは、手を開きます。

- おうちの方と1年生が、代わるがわる問題を出し合うと、楽しいゲームになります。
- はじめのおはじきの個数を、3～10個の間で変えてみましょう。